

2024年度 学校法人 三幸学園 千葉リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 大友 研八

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 山形 一利

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

学校運営では生徒の安全、安心を最優先に考え、学園のミッション・ビジョンの実現とスポーツ分野のビジョンや教育理念、そして人材育成像の実現に向けた取り組みを実施。

- ・学生満足度(授業、行事、実習、就職)の向上、愛校心(帰属意識)を持った学生の育成。
- ・学習習熟度の強化(わかりやすい、興味を持たせる授業の工夫)⇒資格取得率の向上。
- ・「挨拶」「掃除」「主体性な行動」が当たり前できるようにマインドの醸成から行動変容できるよう指導。

【取り組み】

- ・学んだ内容をアウトプットする機会を増やし、知識の定着を促す。(ボランティア・インターンシップ等)
- ・講師や保護者など関係各所とのコミュニケーション・連携を強化し、適宜適切な学生指導を実施。
- ・一貫指導を徹底し、定められているルールやマナーは個人によって指導レベルの差が生まれないようにする。

【振り返り】

- ・アウトプットする機会の提供は前年度よりも増加したが、参加する機会を得ることだけに留まってしまい、知識をアウトプットするという意識は学生によって個人差が生じた。
- ・情報共有が活発化され、全教職員がタイムリーに学生情報を得られる環境となった為、適切なサポート体制が生まれ退学率の低減につながった。
- ・年度当初は徹底できていたものの、徐々に講師間で指導レベルに差が生まれてしまった為、一部の学生からの不満につながった。

②学校関係者評価委員コメント

- ・アウトプットする機会として、姉妹校では海外に学生を派遣し、トレーナー業を行ってもらった実績がある。上位層の育成として、日本だけではなく、国際的な取り組みにも目を向けることで、より高い教育効果をもたらすことができるのではないかと。(朝比奈委員：スポーツトレーナー科、スポーツ&アクティビティ科)

・インターンシップを受け入れる際に学生の目的意識が低いと感じる。何を学びに来たのかインターンシップ前に学校で動機づけを強化していく必要がある。(山形委員:スポーツトレーナー科、スポーツ&アクティビティ科)

・インターンシップを受け入れる企業側への趣旨・目的説明を学校側はより丁寧に実施をしていく必要がある。双方共通認識の上で取り組むことができれば、より高い教育効果も得られるのではないか。(山形委員:スポーツトレーナー科、スポーツ&アクティビティ科)

・単位の為にと考えるのではなく、主体的にやってみたいと思わせる必要がある。入学時よりインターンシップとしてではなく、レッスンやプログラムの体験会を複数回実施し、興味をもってもらうことが重要だと感じる。(溝口委員:スポーツ&アクティビティ科)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

- ・理念や人材育成像について、学生及び教職員へこちらから一方的に伝えるばかりであるため、浸透には至っていないと感じる。
- ・「各学科に対応する業界のニーズ」については、まず担任メンバーから知見を深める必要がある。
- ・全体会議等で伝えてはいるが、理念を基にした指導には至っていない部分がある。全員に引き続き浸透させることが課題である。
- ・業界ニーズを把握するため、訪問期間の設定はしたが、各自が訪問した内容の共有に関しては課題がある。

②今後の改善方策

- ・全体会議等にてなぜそのような設定がなされているのか、その目標と現状のギャップ・改善策について等、ディスカッション等をする機会を持つ。
- ・業界の動向を収集する機会が少ないため、実習や就職に関する企業訪問を増やす。
⇒年間での目標設定を行い、企業訪問に積極的に行くよう促しを強化。

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員コメント

- ・各企業の人事担当者に協力を頂き、学校関係者に向けて、自社のPRができる機会の設定を行う。教職員も職業理解につながり、企業としてもPR活動につながるのではないか。(山形委員:スポーツトレーナー科、スポーツ&アクティビティ科)
- ・年に1度実施をしているスポルテック等のイベントに積極的に足を運び、その年の最新トレンドを

体験しながら学べる機会を提供できると良い。(朝比奈委員:スポーツトレーナー科、スポーツ&アクティビティ科)

(2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

①課題

・コンプライアンス意識の醸成。

②今後の改善方策

・全体会議等でコンプライアンス研修を実施し、全教職員の意識を向上させる。

③特記事項

・問題となりそうな案件がある場合は、該当者と責任者にて面談を実施し、共通認識を図り、抑止に努める。

④学校関係者評価委員コメント

・弊社では3ヶ月1回研修を実施している。オンデマンドコンテンツを用いながら実施を義務付けることで意識向上を目指しているが、繰り返し実施をしないと意識の定着は図れない為、1年に複数回実施をすることが重要と感じる。(山形委員)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

- ・講師陣の適性配置。
- ・学生の職業観醸成。
- ・学生が希望する就職先を把握した上での適切な求人紹介。

②今後の改善方策

- ・新規講師を派遣いただく際には、事前に経歴の確認や場合によっては事前の面談を実施し、適切な人材であるかどうかの見極めが必要。また、派遣後も状況を把握し、会社・学校双方からのフォローアップをする。
- ・入学初期～前期末にかけて、学生が複数の職種を体験できるよう職業体験会を設定する。
- ・講師陣からキャリア形成の話をしてもらう機会を設定し、学生が”キャリアの積み方”を知る機会をつくる。

③特記事項

- ・あきらめない教育の理解を深めるために、全体会議にて全教職員に繰り返し伝えている。
- ・授業オリエンテーションの強化⇒目的、年間授業計画、評価方法を初回授業で必ず説明した。
- ・授業アンケートで評価の低い教員や学生からのコメントが気になる教員は責任者が面談を実施。
- ・授業アンケート項目の中で、特に部門として力を入れていきたいものを提示し、統一認識を図った。

・授業力向上研修にて授業力向上のための意見を集約した。

④学校関係者評価委員コメント

- ・外部講師を招いて、接客や営業の研修を行っている会社が多い。学校についても、教職員の意識向上に向けて外部講師を入れた接客やコミュニケーションの研修を全体会議等で実施しても良いと感じる。(朝比奈委員)
- ・高校では授業力向上の取り組みとしてICT ツールの利用を推進している為、教職員も知識を深めていく為に研修を年数回実施している。(佐藤委員)

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・主要資格取得率の向上。
- ・卒業生とのつながりが薄く、卒業生の活躍やどのようなキャリアを歩んでいるか等、把握できている数が少ない。

②今後の改善方策

- ・主要資格の完全任意化。
- ・任意選択科目として対策授業の運用。(資格を受講する学生のみが履修する方針に変更)
- ・同窓会の強化、同窓会 LINE の運用。
- ・同窓会を開催し、定期的に卒業生・教員が交流できる場を設ける。

③特記事項

- ・毎年退学者が増加する傾向にある年度初めに長期休暇明けに個人面談を実施した。
- ・各種退学指数のアンケート結果を分析し、担任会議にて全体へ共有後、担任中心に退学指数が高い生徒に対してアプローチした。

④学校関係者評価委員コメント

- ・入社後に資格を取らせる会社が増えてきており、入社基準に資格の有無が無くなってきたことで、資格受験者も減少しているのではないかと。学生にその背景を伝えた上で資格受験を促していく必要がある。(山形委員)
- ・ヨガ・ピラティス等、近年トレンドになっている業種は有資格者が少ない為、在学中に取得できる千葉リゾート&スポーツ専門学校は有利に働くのではないかと。(山形委員:スポーツトレーナー科、スポーツ&アクティビティ科)

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

- ・スクールカウンセラー制度を導入し、利用できる環境はあるが、周知ができておらず利用頻度も低い。（利用1名）
- ・学生間でモチベーションに差が生じてきており、授業環境にも悪影響を及ぼしている。
- ・卒業生支援体制については、卒業後の関わりも含めて課題がある。

②今後の改善方策

- ・学生にスクールカウンセラー制度があることをしっかりと周知し、担任からも利用した方が良いと思う学生には積極的に案内をしていく。
- ・定期面談を実施し、学生のモチベーション管理をしていく。
- ・教員間での連携を強化し、モチベーションが低下している学生については複数名で動機づけを行う。
- ・卒業生が就職をしている企業に訪問することで、卒業生の状況を知り、その後の支援にも役立てる。

③特記事項

- ・就職サポートシステムとして複数名の教員による就職支援システムを構築している。
- ・2月には就職決起会にて各企業の人事担当者様に対面で会社説明会を実施いただいた。

④学校関係者評価委員コメント

- ・1度でも退学を検討した事のある卒業生の話を聞く機会を提供することで、退学を検討した場合においても退学を思いとどまる1つのきっかけになるのではないかと思う。（朝比奈委員：スポーツトレーナー科）
- ・個別最適化が大きな課題となる為、高校では学生を5段階に分け、段階に応じた指導を行っている。（佐藤委員）
- ・個別最適化は本校内での大きな課題の為、次年度はオンライン授業と対面授業を併用するハイブリッド型の授業展開も現在検討中である。（大友さん：スポーツトレーナー科、スポーツ&アクティビティ科）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

①課題

- ・実技授業増加に伴いトレーニングマシン台数が不足しており、追加で導入をする必要がある。
- ・防災・安全管理に関するマニュアルについては毎年更新し共有を行っているが、生徒を含めた避難訓練等については不十分であると感じる。

②今後の改善方策

- ・マシンの追加導入、施設改装。
- ・年2回の避難訓練実施。避難経路や避難場所の確認を行う。

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適正に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

・入学希望者に対し、職業理解の為の体験イベントや適切なコース説明を実施しているが、伝わっていない内容も多く、入学後にギャップを感じる学生もいる。

②今後の改善方策

・入学前の段階で学校生活の様子や授業内容、将来目指すべき職業についてギャップが生じないよう複数回説明をする。

③特記事項

・特に学習難易度の高いアスレティックトレーナーコースについては入学前の2月に別途説明会を実施し、再度コース選択の機会を与えている。

④学校関係者評価委員コメント

・スポーツビジネス・マネジメントについては、大学やその他専修学校でも人気があるジャンルであり、今後大きく展開をする価値はあると思うが、現状出口が少ない為、しっかりと出口を確保した上で学科展開を行っていく必要性を感じる。（山形委員：スポーツ&アクティビティ科）

・一般の方向けに学びをアウトプットする教育機会を学内でも増やしていく必要がある。（朝比奈委員：スポーツトレーナー科、スポーツ&アクティビティ科）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

・なし

【予算・収支計画】

・なし

【会計監査】

・なし

【財務情報の公開】

・なし

②今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の2年目であり、ホームページ上に公開している。
今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

・なし

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

- ・更なる法令遵守の推進。
- ・個人情報の取り扱いについては、今後も周知徹底をする。

②今後の改善方策

- ・教職員会議や掲示物を通じて、法令遵守に対する啓蒙活動を継続的に行う。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題

・学んだ内容を一般の方(地域の方)にアウトプットするような機会提供ができていない。

②今後の改善方策

・姉妹校と連携し、地域活性化の為に実施をしているイベントに本校学生も参加し地域貢献を行う。

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員コメント

・特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

①課題

・受け入れ準備はなされているが、受け入れた実績は少なく、スポーツ業界の仕事は就労ビザの関係もかなり厳しいため、受け入れた後の就職先という点では課題がある。

②今後の改善方策

・留学生受け入れの際は国際事業部とも連携をし、卒業後の就職先確保を行う。
・業界有識者の方に、業界の留学生受入れ状況をヒアリングし、指導に活かす。

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員コメント

・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・課外活動やインターンシップへの参加は機会提供だけではなく、企業と学校が連携を深めていくことで初めて高い教育効果を発揮すると感じる。千葉リゾート&スポーツ専門学校に限った話ではないが、例年インターンシップを受け入れている企業に話を聞くと、学校側からの明確な指示が無く、丸投げに感じるという意見も少なからずある為、次年度は企業との連携を密に対応してほしい。(山形委員)

・学生指導における個別最適化が今後重要になってくる為、専門学校においても週4日登校やオンライン授業との併用など、前向きに検討をしてほしい。(佐藤委員)

・学生のモチベーション向上には“楽しい”と実感させる事が重要と感じる。入学後からインターンシップ等ではなく、単純に色々なプログラムを体験する機会提供を増やしてくとよい。(溝口委員)